

# 医療制度改革

今国会の焦点の一つでもある医療制度改革について、社会保障制度全般のあり方から論戦を挑み、国民負担増に対する政府の対応の遅さを糾すとともに、今回の「改革なき負担増」の医療制度改定にも断固反対との主張を展開しました。

## 主張のポイント

国民の社会保障負担（保険料 + 税金）は、すでに過去20年の間に、大幅に増えている。政府による今後の予測でも、その負担は益々増大するとされている。（参考 - 1）

収入が増えないのに社会保障負担だけが増大していくことから、社会保障への信頼が損なわれ、雇用や老後に対する不安が増大している。このため、国民は消費を抑え、貯蓄に走っている。安心のためにあるはずの社会保障が心配のタネになっている。（参考 - 2）

年金も医療も、右肩上がりの経済を前提にして構築された制度であり、その前提が大きく変化したにもかかわらず、根本的な見直しもされないまま、制度維持のための財政面の帳尻合わせだけが繰り返されている。（参考 - 3）

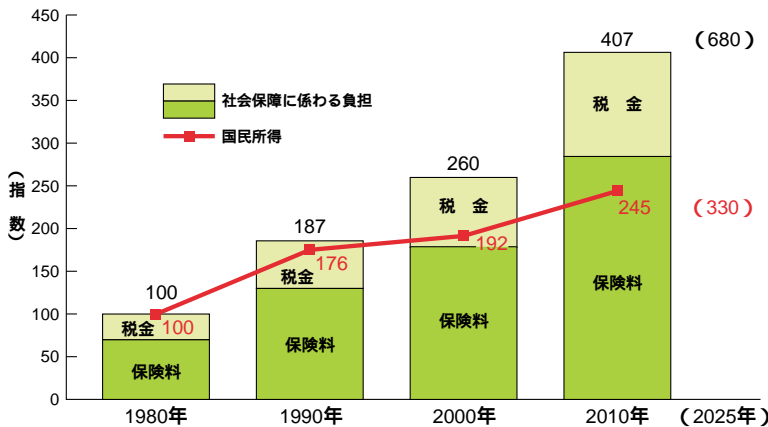
医療について見ても、国民負担が増加していくことは明らかであり、今やるべきことは、医療の質を確保しながら、高コスト構造を是正し、将来にわたって安心できる制度を創り上げること。（参考 - 4）

5年前（H9年）当時厚生大臣だった小泉首相は、医療制度の抜本改革を約束して、「本人負担2割」などで約2兆円の負担を国民に押し付けた。いわば国民から「借金」をしたわけだが、今回、それを返さないまま、「本人3割負担」という次の借金を迫っているようなもの。

まずは、抜本改革を実行して借金を返すべき。（参考 - 5-1）（参考 - 5-2）

### 参考 - 1 社会保障負担は、所得の伸びをはるかに上回る

社会保障負担と国民所得の伸び  
(1980年を100とした名目の伸び率)



(資料) 1980年・1990年は実績値。「平成11年度社会保障給付費」(2001年、国立社会保障・人口問題研究所) 2000年以降は推計値。「21世紀に向けての社会保障」(2000年、社会保障構造の在り方について考える有識者会議)の付表「社会保障の給付と負担の見直し」(旧厚生省)より試算。

### 参考 - 2 消費を抑え、貯蓄に走る国民

消費はマイナスが続くが、貯蓄は3年間で130兆円増加

| 年   | 消費支出 (対前年増加率) | 貯蓄 (兆円) |
|-----|---------------|---------|
| H9  | 0.2           | 1288    |
| H10 | 2.2           | 1325    |
| H11 | 1.2           | 1390    |
| H12 | 0.9           | 1418    |
| H13 | 1.8           | (未確定)   |

(資料: 総務省「家計調査報告」 日銀「資金循環統計」)

### 参考 - 3 制度維持のための財政面の帳尻合わせだけが繰り返される

|    |  |
|----|--|
| 年金 | 5年ごとに将来の財政の計算をし、給付や保険料を見直し。次回は、2005年（H17年）に見直し時期を迎える。                  |
| 医療 | 原則として2年に1回、診療報酬を改定<br>今回、4月実施で改定が行われ、次回は2004年（H16年）に予想される。             |
| 介護 | 2000年（H12年）4月に制度創設されたが、「3年後の保険料・介護報酬見直し」が規定されており、2003年（H15）に見直し時期を迎える。 |



坂口厚生労働大臣